

## 平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年10月22日

上場取引所 東 福

上場会社名 株式会社 ミスターマックス

コード番号 8203 URL <http://www.mrmax.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 平野 能章

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経本部長

(氏名) 中野 英一

TEL 092-623-1111

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日

平成21年12月1日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	52,342	5.5	680	76.3	784	58.5	519	—
21年3月期第2四半期	49,606	—	385	—	495	—	△559	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	15.54	—
21年3月期第2四半期	△15.93	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	70,705	21,783	30.8	651.67
21年3月期	70,225	21,417	30.5	640.60

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 21,769百万円 21年3月期 21,401百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
22年3月期	—	5.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	101,200	1.5	900	33.6	1,100	33.9	700	—	20.95

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ[定性的情報・財務諸表等] 4. その他を参照ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、5ページ[定性的情報・財務諸表等] 4. その他を参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 39,611,134株 21年3月期 39,611,134株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 6,205,024株 21年3月期 6,203,528株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 33,406,761株 21年3月期第2四半期 35,151,788株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであります。実際の業績は、今後、個人消費や気象条件など様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期において、ディスカウントストア事業を行う(株)ミスターマックスは、特に購買頻度の高い消耗品について、年間を通じて安定した低価格でご提供できるよう取り組みを強化するとともに、「医薬品」や「日配食品」など新品种の導入にも積極的に取り組んでまいりました。

「医薬品」の取り扱い店舗は6店舗に拡大し、また、「パン」の取り扱い店舗を全42店舗中34店舗に拡大しました。

商品別の売上高では、酒類の売上高が前年同期比6億64百万円(57.9%)増加した他、パンなど日配食品の売上高が前年同期比2億80百万円(520.4%)、菓子の売上高が前年同期比2億36百万円(11.4%)増加するなど、食品の販売が好調でした。特に「産地と銘柄にこだわった、おいしいお米を、お求めやすい価格で食卓に届けたい」という思いで開発したプライベートブランドの米の売上高が前年同期比1億99百万円(43.8%)増加したことにより、プライベートブランド以外の商品を含めた米の売上高が前年同期比3億円(37.3%)増加し、食品の総売上高が、前年同期比18億44百万円(21.6%)増加し、客数と売上高の増加に大きく貢献しました。

また、インフルエンザ対策用にマスクの売上高が前年同期比2億1百万円(3,245.0%)増加した他、衣料用洗剤・柔軟剤の売上高が前年同期比1億82百万円(15.9%)、殺虫剤の売上高が前年同期比99百万円(22.5%)増加するなど、HBC(ヘルス・アンド・ビューティー・ケア)関連の売上げも前年同期比11億61百万円(14.4%)と大きく増加しました。

家電製品では、9月17日から「エコポイント対象19インチ地デジ液晶テレビ」を税込29,780円で発売するなど、プライベートブランドの液晶テレビの売上高が前年同期比4億4百万円(458.4%)増加したことにより、プライベートブランド以外の商品を含めた液晶テレビの売上高が前年同期比4億54百万円(49.1%)増加、また、ブルーレイディスクレコーダーの売上高も前年同期比1億7百万円(182.3%)増加しました。

当第2四半期の連結経営成績は、MrMaxの既存店客数が前年同期比6.8%、既存店売上高が前年同期比5.8%増加したことにより、売上高501億96百万円(前年同期比5.8%増加)に不動産賃貸収入21億45百万円(同0.3%減少)を加えた連結営業収益は523億42百万円(同5.5%増加)となりました。また、販売費及び一般管理費は、減価償却費が1億54百万円減少し、広告宣伝費を74百万円削減したことなどにより、前年同期比2億36百万円減少し、116億29百万円(同2.0%減少)となりました。その結果、連結営業利益は6億80百万円(同76.3%増加)、連結経常利益は7億84百万円(同58.5%増加)と、ともに増益となりました。

前年同期の四半期純利益は、「棚卸資産の評価に関する会計基準」適用初年度にあたり、期首棚卸資産の変更差額10億26百万円を特別損失に計上したことにより、5億59百万円の損失でしたが、当第2四半期における純利益は5億19百万円となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産・負債・資本の状況

#### (総資産)

当第2四半期における総資産は、売掛金や出店予約金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ4億80百万円増加して、707億5百万円となりました。

#### (負債)

負債については、長期借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ1億14百万円増加して489億22百万円となりました。

#### (純資産)

純資産につきましては、連結剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ3億66百万円増加して217億83百万円となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益は7億78百万円、減価償却費は7億73百万円となりましたが、売上債権が9億22百万円増加したことなどにより、営業活動により得られた資金は、3億48百万円となりました。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

預り敷金・保証金の返還や出店予約金の支出などにより、投資活動に使用した資金は、11億4百万円となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は、長期借入金の増加などにより8億円となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間末における現金および現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ40百万円増加し、22億19百万円となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年7月1日付にて、当社が所有していた(株)ピーシーデポマックス(現(株)ピーシーデポ九州)の株式をすべて(株)ピーシーデポコーポレーションに譲渡しました。このため、当第2四半期以降、(株)ピーシーデポマックス(現(株)ピーシーデポ九州)は、当社の連結対象外となりました。(株)ピーシーデポマックスの前期の7~9月における売上高は6億77百万円、売上総利益は1億33百万円であり、また、前期の10~3月における売上高は15億19百万円、売上総利益は3億3百万円でした。(株)ピーシーデポマックス(現(株)ピーシーデポ九州)が連結対象外となったことにより、売上高、売上総利益に上記の影響が生じますが、営業利益、経常利益、当期(四半期)純利益に与える影響は軽微であります。

当第2四半期の業績は当初見込みを大幅に上回りましたが、消費環境は依然厳しく、また当第3四半期から第4四半期にかけて新規出店に加え、新品种導入に伴う改装を複数店舗で予定していることから、平成22年3月期の通期連結業績予想につきましては、平成21年5月15日発表時の業績予想を据え置くものとします。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目等を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 商品の評価基準及び評価方法

従来、商品の評価基準及び評価方法については主として売価還元法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より、物流センター内の商品については、評価方法を移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更しております。この変更は、システム変更により従来に比べ適切な原価の把握が可能になり、在庫評価をより合理的に算定できるようになったためであります。

これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は57百万円増加しております。

② 税金費用

従来、税金費用については、四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっておりましたが、より合理的に税金費用を計算するため、第1四半期連結会計期間より、原則として年度決算と同様の方法により計算する方法に変更しております。なお、法人税等の納税額の算定に関しては、加味する加減算項目等を重要なものに限定しております。

この変更による四半期純利益に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,226	2,176
売掛金	1,913	1,151
有価証券	45	59
商品	7,133	7,757
貯蔵品	57	60
その他	1,422	1,318
流動資産合計	12,798	12,523
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,424	15,867
土地	27,367	27,367
その他(純額)	935	912
有形固定資産合計	43,727	44,147
無形固定資産	350	341
投資その他の資産		
投資有価証券	527	431
その他	13,306	12,811
貸倒引当金	△5	△29
投資その他の資産合計	13,828	13,213
固定資産合計	57,906	57,702
資産合計	70,705	70,225

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,135	13,084
短期借入金	—	280
1年内返済予定の長期借入金	7,700	7,583
未払法人税等	311	332
賞与引当金	406	364
店舗閉鎖損失引当金	384	384
その他	3,129	3,591
流動負債合計	25,067	25,620
固定負債		
長期借入金	15,650	14,852
退職給付引当金	468	447
その他	7,737	7,888
固定負債合計	23,855	23,187
負債合計	48,922	48,808
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,229	10,229
資本剰余金	9,951	9,951
利益剰余金	4,214	3,862
自己株式	△2,541	△2,540
株主資本合計	21,853	21,502
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△75	△103
繰延ヘッジ損益	△7	2
評価・換算差額等合計	△83	△101
少数株主持分	13	16
純資産合計	21,783	21,417
負債純資産合計	70,705	70,225

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	47,455	50,196
売上原価	37,355	40,032
売上総利益	10,100	10,164
不動産賃貸収入	2,151	2,145
営業総利益	12,251	12,310
販売費及び一般管理費		
販売費	2,507	2,509
一般管理費	9,358	9,120
販売費及び一般管理費合計	11,865	11,629
営業利益	385	680
営業外収益		
受取利息	48	49
受取手数料	102	109
仕入割引	105	107
その他	61	37
営業外収益合計	318	304
営業外費用		
支払利息	174	158
その他	34	41
営業外費用合計	208	199
経常利益	495	784
特別利益		
投資有価証券売却益	—	7
関係会社株式売却益	—	13
テナント解約収入	31	4
その他	0	—
特別利益合計	32	25
特別損失		
投資有価証券評価損	—	24
固定資産除却損	6	4
たな卸資産評価損	1,026	—
その他	6	2
特別損失合計	1,040	31
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△512	778
法人税、住民税及び事業税		273
法人税等調整額		△13
法人税等	49	259
少数株主損失(△)	△1	△0
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△559	519

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△512	778
減価償却費	927	773
退職給付引当金の増減額(△は減少)	18	23
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2	47
受取利息及び受取配当金	△50	△54
支払利息	174	158
投資有価証券評価損益(△は益)	—	24
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△13
有形固定資産除却損	6	4
売上債権の増減額(△は増加)	△693	△922
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,489	321
仕入債務の増減額(△は減少)	20	118
その他	△97	△484
小計	1,280	775
利息及び配当金の受取額	10	10
利息の支払額	△156	△141
法人税等の支払額	△43	△294
法人税等の還付額	358	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,448	348
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△229	△169
無形固定資産の取得による支出	△157	△83
投資有価証券の取得による支出	△24	△115
投資有価証券の売却による収入	4	52
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△10
その他	△193	△777
投資活動によるキャッシュ・フロー	△600	△1,104
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△170	20
長期借入れによる収入	4,000	5,000
長期借入金の返済による支出	△4,294	△4,052
自己株式の取得による支出	△114	△0
配当金の支払額	△176	△167
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△754	800
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	93	40
現金及び現金同等物の期首残高	1,250	2,178
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,343	2,219

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。